会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定に

より，次のとおり会議記録を公表します。

|  |  |
| --- | --- |
| 会 議 名 | 第６回高松市創造都市推進審議会 |
| 開催日時 | 平成２５年７月７日（日）１３：３０～１５：００ |
| 開催場所 | 高松市役所　３階　３２会議室 |
| 議 題 | (1) 審議会，懇談会の経過(2) 主なプロジェクトの検討(3) その他  |
| 公開の区分 | 　　■　公開　　□　一部公開　　□　非公開 |
| 上記理由 |  |
| 出席委員 | 佐々木会長，中副会長，大西委員，木村委員，小西委員，瀧澤委員，佃委員，徳増委員，西成委員，橋本委員，広野委員，松山委員，三井委員，三矢委員 |
| 事務局 | 宮武局長，松本参事，秋山部長，米山課長，宮崎課長，長井課長，石原課長，永正課長，東原課長，櫻又場長，佐々木課長，佐野補佐，溝渕係長，永木 |
| 傍 聴 者 |  ０ 人　　（定員　１０　人） |
| 担当課および連絡先 | 産業振興課　創造産業係８３９－２４１１ |

|  |
| --- |
| 審議経過および審議結果 |
| １　開会事務局より開会の挨拶を行った。２　議題（１）報告事項　ア　審議会，懇談会（Ｕ－４０）の経過　事務局と懇談会メンバーから説明を行った。（委員）「交流　「交流空間とは何か」というテーマで，美術館カフェなどの狭い空間としての交流もあれば，高松全体という都市空間としての交流もあるという議論があった。例えば，サンポートに芝生の広場があるが，そこでバーベキューができるようにすると同時に，震災時に対応できるようにしてはどうか。防災と関連させた，日常的な使い方は魅力的である。実現するためには，高松市だけでなく，若者の取組みなど，様々な主体が必要となってくる。しかし，全体の調整に数年もかかってしまうのは避けなければならない。ら消費 |

|  |
| --- |
| 審議経過および審議結果 |
| （委員）「食」の　食の議論について，ビジョンにおける食の分野が幅広く，生産から消費までがテーマになるという話があった。食を「食べる」ところまでを骨子案に落とし込むのがよい。食そのものが，創造的人材を生み出す基盤という意見があった。また，食と生活工芸のコラボ，食と交流空間のコラボによるコミュニケーションの場作り，食と健康の組み合わせによる個食・孤食対策などが挙げられた。　イ　今後のスケジュール　事務局より説明を行った。（２）協議事項　主なプロジェクト等の検討（意見交換）（委員）骨子案の内容は申し分ないが，役所言葉で書かれており，まだ分かりにくい。後々，パブリックコメントとなるが，どの年齢層を対象とするかで表現を変える必要がある。次世代の人々にも分かりやすい表現や，時代を先取りしたニーズを見据える必要がある。細かいプロジェクトについてはこれで十分であり，現在の審議会は枝葉の内容にこだわりすぎている。（会長）議会に提出する必要があるため，行政用語を使わざるを得ないため，その後に市民へと広く伝える方法に工夫がいる。Ｕ－４０において，ロゴの話も出ており，映像などを使ってもよい。（委員）創造都市は他の条例と違ってもよい。創造都市を総論としてまとめた後，利害関係者が好きに議論をし，内容を変えてもよい。（会長）この場は　審議会であり，ビジョンをまとめて終わりではない。具体的にプロジェクトが動いた後に，中間評価を行うという時間軸で考える必要がある。社会実験や評価を行い，プロジェクトの修正をし，より具体化するというＰＤＣＡサイクルで回していく。世代を超えて伝え，時間をかけて具体化するという動かし方になる。（委員）祝祭の中に「高松まつり」が入っていないのはなぜか。「高松まつり」や「夏祭り」についての記述を，「祝祭」に入れてはどうか。（事務局）祝祭として，「高松まつり」「夏祭り」を入れさせて頂く。（委員）観光客といった移動人口への対応についての記述が欠落している。特に高松の文化，伝統，歴史を伝える内容が抜けている。創造都市は未来志向の概念であるが，過去の歴史などを学習することが，外の人々との交流の深みにつながる。小さい頃から多少なりとも自分の町についての歴史を学び，他の町に自慢したくなるような地盤作りをしてはどうか。香川県では，７月から「時間旅行物語」が始まった。商品には，成長商品，売れ筋商品，伝統的商品があり，特に伝統商品の深掘りを行うことで物語に触れる必要がある。先日，仏生山に行ったが，スタンプラリーでの説明が平凡であり，一部間違いがあった。他の町の人々に説明できるぐらいには，歴史の学習は必要ではないか。（委員）祝祭について，昔からの地元の祭りについて触れられておらず，新しい取組みばかりが挙げられている。もう少し，歴史を元にした地元の祭り，文化をビジョンに取り入れた方が良い。（委員）交流空間として挙げられているのは，サンポートなど港周りが多い。しかし，私としては商店街の方が身近に感じるため，商店街も含めてはどうか。（委員）生活工芸について，伝統工芸や民芸でなければ，生活工芸にならないわけではなく，若い人々は新しいスタイルで作っている。より広い範囲で，「高松ならではの生活工芸」とは何なのかと考えてはどうか。祝祭の中で，生活工芸祭を取り上げているが，工芸祭に対する高松市の立ち位置を表明していただけるとありがたい。（会長）創造というプロセスにおいて，伝統と向き合う，再編集していく中で新しい価値が加わり，逆に伝統の再確認にもつながる。生活工芸の概念が厄介であり，注釈を付け加える必要がある。また，工芸職人が生きていくマーケットをどうするかという視点も必要。（事務局）ビジョン冊子は２つに分ける予定であり，１つは総論，もう１つは各論となる。表紙は分かりやすく，イラストもふんだんに利用する。今後，２８日の第７回審議会で最終的な意見を頂くため，それまでには委員一人ひとりに冊子の説明を行う予定である。現在の高松市では，創造都市推進ビジョンの他に，文化芸術振興条例，ものづくり基本条例，新高松市観光振興計画を作っている。ビジョンが上にあり，以上の条例や計画が下にあるため，条例や計画で必要となる内容は必ずビジョンに取り入れる。（会長）金沢市は２００９年に歴史都市という国の指定を受け，創造都市・歴史都市という二枚看板を掲げるようになった。高松市では，伝統や歴史を創造都市の中に折り込みながら，説明していくのか。これについては考える必要がある。創造都市は未来指向の取組みであるから，歴史に係る記載のバランスは考える必要がある。（委員）県と市の二重行政を解消し，「これは高松市がやる，これは香川県がやる」とさせた方がよい。屋島について，勉強すると面白い歴史がある。市民も知らない歴史を伝える取組みを，図書館などで行ってはどうか。（会長）将来的には，市のウェイトが高まり，県は市以外の広域的な事業を行うことになるのではないか。（委員）伝統文化や歴史の保存はしても，活用はしない。高松に「伝統」という言葉は必ずあるため，その書き方について何とかしてほしい。（委員）伝統があるからこそ，将来がある。伝統を子どもたちにしっかりと伝えれば，子どもたちが感性で産業や工芸を生むことに繋がる。素晴らしい伝統をしっかりと教える仕組みが必要である。（委員）美術館カフェはすぐに始まると思っていたら始まらず，瀬戸内国際芸術祭の時期に合わせると思っていたが，どうやらまだ始まっていないのはどういうことなのか。（事務局）美術館カフェについて，実施時期を８月頃と１０月頃にすると前回審議会で報告したが，美術館の空調設備が故障していたことが発覚し，修繕工事が発生したため，その調整により時期が遅れている。一団体目の開催を９月頃に，二団体目の開催を秋シーズンにする。また，６月議会にて補正予算案を提出し，プロモーション映像制作業務が可決された。ビジョンの策定時期に合わせて，創造都市推進に向けたビジョンやイメージを市民に発信する。学校や公共施設，駅，商店街などで放送し，またインターネットでも配信する予定である。（会長）歴史をうまく取り入れた映像を作るとよい。（委員）交流空間の取組みイメージについて，「公共交通システムの見直しによるコンパクト・エコシティの推進」がよくわからない。高松市の公共交通と言えば「ことでん」であり，しかも１００年も残っている。現に果たしている役割は大きく，公共交通のシステムの見直しではなく，より積極的な表現にしてほしい。超高齢社会に向けた，福祉バスなどのサービスを，行政ではなくことでんが担うことは可能である。創造都市における公共交通の立ち位置はしっかりと考える必要がある。また，超高齢社会を迎える中で，買物難民を生み出す問題もある。（会長）見直しではなく，「公共交通システムの充実」という表現がよい。金沢の隣の富山市では，福祉的な施策の１つとして，路面電車を作った。（委員）琴電の電　ことでんで電車を守り，走らせ続けている従業員は，まさにクリエイティブな人材ではないか。（委員）ビジョンの実現に向けて，施策によっては１０，２０年かかるだろう。その中で，Ｕ－４０はすごく良い取組みであり，若手と市役所の間で信頼関係を築き，時にはメンバーを入れ替えて，今後も続けていきたい。むしろ，将来の創造的人材を育成することもできるため，主軸にしてもよいのではないか。（副会長）「食のイメージ」について，創造都市的には，農産物の地産地消や地元農産物のブランド化の方がよい。新規就農者の増加のためには，農業を魅力的にしなければならない。今のビジョンでは，食べる方に重点を置いているため，むしろ地元農産物のブランド化の方が創造都市に合う。（委員）交流空間の海のある暮らしの推進について，女木島や男木島について触れてはどうか。現在，挙げられている例は，陸だけの視点に限られている。高松市は，物理的に陸と島を行ったり来たりできる利点がある。また，町を海から見ることができ，高松市が港町であることを再認識できる。（委員）次の世代につなげていくときに，教育に携わる人が次の世代にアプローチすることになる。高松市の教育委員会は，創造都市の考え方についてどのように考えているのかが気になっていた。しかし，今までの議論では，意識的に何かを創りだそうとしている人たちが対象であった。実際に教育に携わる人が創造都市のことをどのように考えているのかは重要である。子どもたちに対して，学校は大きな力を持っている。クリエイティブになれと言いながら，クリエイティブになる環境がなければ，子どもたちは戸惑うだけである。（会長）「子ども」のテーマにも関わるため，次回に本格的に議論した方がよい。（委員）小学校には総合学習があり，栗林小学校では年に数回，栗林公園で始業式を行なっている。「高松の今と昔」という教科書があり，社会科の時間に勉強した記憶がある。小学校から高松市についての学習の機会には恵まれていると思う。高松まつりの話が出たが，魅力あるものにするためには，高松まつりは高松まつりの人々で考える，屋島は屋島の人々で考えるように分散させてしまうのでは，人が集まらない。創造都市週間を設けるなどして，集中させた方がよい。（委員）高松市の生涯教育について，高松市には「まなびCAN」というものがある。そこで生涯教育を行えば，習慣病や認知症予防にもつながり，高齢社会への対策にもつながる。（委員）Ｇｏｏｇｌｅとの付き合いの中で，創造都市の理念や映像を含めて，高松市がＩＴを活用したコミュニケーションの新しい創造的な活動を取り入れられないかと感じた。徳島県では，神山町が総務省の予算で，ホームページを一緒に作るプラットフォームを設け，創造的な町民づくりを始めた。高松市の創造都市推進について，未来型の産業に関わる人々やコンテンツやドキュメントを自分たちで加工していくムーブメントが起こると，より未来につながりやすいのではないか。（会長）イギリスではブレア政権の際，クリエイティブ・ロンドン，クール・ブリタニアという事業は非常に成果があった。また，先月も文化審議会で，教育と文化，芸術の関係が議題として取り上げられた。このような事例から，高松市ではどのようにしていくのかを考えるとよい。（３）その他　事務局より説明を行った。４．閉会（以上） |